

# 平成 27 年度 会派調査研究報告書

( 視察先 1 箇所につき 1 枚 )

会 派 名	上田新風会	
事 業 名	先進地視察 埼玉県行田市「定住促進奨励金」について 「企業誘致奨励金」について	
事 業 区 分	研究研修	調 査

## 1 上田市での課題と研修・調査の目的

<p>上田市では平成 18 年の合併後、徐々に人口が減ってきており、早急な人口減少傾向からの脱却の為の施策を迫られている。</p> <p>埼玉県行田市は関東平野のほぼ中央に位置し、国道 17 号線や関越自動車道にもアクセスが容易であり、JR 高崎線行田駅（旧信越本線行田駅）や秩父線行田駅もあり、気候も温暖で埼玉県全体が東京のベッドタウンに最適だと思われる。しかし、人口の減少傾向は上田市と同じ問題を抱えており、行田市では平成 25 年から子育て世帯定住促進奨励金制度を新設し、市外からの転入促進を図っている。また、雇用の創出と産業の振興を図るため、「企業立地奨励金」を創設して他地域からの移住・定住促進と、「子育て世帯定住促進奨励金制度」との相乗作用により人口減少に歯止めを掛け、市政の発展に結び付けるねらいがある。</p> <p>同様の問題を抱えている上田市にも、参考にしたい。</p>
---

## 2 実施概要

実施日時	視察先	埼玉県行田市
平成 28 年 1 月 21 日（木） 13:30 ~ 15:00	担当部局	総合政策部企画政策課 政策推進幹 浅見知正 環境経済部商工観光課 課長兼産業振興推進幹 磯貝和美
報 告 内 容	<p>1 市の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・面積 67.49㎡</li> <li>・人口 85,786人</li> <li>・財政力指数 0.71</li> </ul> <p>2 市の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規模は近畿地方にある古墳より小さいが、埼玉県の語源にもなった、「埼玉（さきたま）古墳群」があり、出土した「金錯銘鉄剣」は国宝に指定されており、古代から文化が栄えた地域である。</li> </ul> <p>隣接する水田で作られる田んぼアートとわらで作る象や恐竜は子どもに人気がある。</p>	



- ・ 利根川と荒川に挟まれた地域は洪水にも悩まされたが、湿地帯に作られた「忍（おし）城」は自然の要塞で、石田三成が川をせき止めて水攻めにした時も耐え抜き、「落城（おち）しない城」と言われた。近年、野村萬歳が主演した「のぼうの城」は、この史実を基に製作された。
- ・ また、綿花の栽培が盛んで、江戸時代後期から大正時代までは、足袋の生産で栄えた。町に残る多くの足袋倉は、現在、博物館として整備され、多くの観光客で賑わっており、新作足袋も人気がある。
- ・ 平成 18 年に南河原村と合併して 85,203 人から 88,786 人になったが、現在では 84,035 人と、合併した・南河原村分以上に人口が減ってしまった。行田市は、平成 25 年に「行田市定住促進基本計画」を策定し、転入促進と転出抑制を図り、計画期間内の人口減少スピードの緩和を図っている。

### 3 視察事項について

報  
告  
内  
容

- ・ 上田から見ると立地条件は問題ないと思ったが、JR 行田駅が中心市街地から車で約 20 分と離れていて、若い世代は新幹線の駅がある熊谷市や、東京により近い鴻巣市に転居するとの事で、転入者は、かつて行田市に住んだ経験のある人が多いとの事。
- ・ 平成 22 年の国勢調査では、人口減少率は秩父市に続いて埼玉県内ではワースト 2 位であり、若手職員の研究会での検討の結果、「行田市定住促進基本計画」（平成 25 年 12 月）の策定につながり、その中の中心部分である「子育て世帯定住促進奨励金」制度が、平成 25 年 4 月からスタートした。
- ・ 制度の利用者数は、平成 25 年 70 件・2370 万円、同 26 年 102 件・3299 万円、同 27 年 89 件・3058 万円。
- ・ 利用者数は、平成 25 年 239 人、同 26 年 369 人、同 27 年 303 人。
- ・ 家の値段は 50～60 坪の土地付き一戸建てで約 2,500 万円前後、JR 行田駅近くの土地で約 1,000 万円、少し離れれば数 100 万円位。
- ・ 市内に産婦人科医は 1 軒しか無く、常勤医師は 1 人で、医師の確保は喫緊の課題である。
- ・ 「定住促進奨励金」は、市内の業者に施工を依頼する「市内事業者施工奨励金」取得額の 5%・最高 20 万円と、市外から転入した子育て世帯が住宅を取得すると交付される「転入者住宅取得奨励金」・最高 40 万円があり、奨励金のうち 10 万円は市内共通商品券と言う制約はあるものの、両制度の併用も可能と言う制度である。（ただし、土地取得金額は含まれない）
- ・ 店舗併用住宅も住宅部分が 1/2 以上あれば適用され、他に「住宅用太陽光設備設置補助金」8 万円と、高効率給湯機設置補助金 5 万円もあり、全てを活用すると 73 万円が交付される。
- ・ 平成 25 年 3 月に「企業誘致条例」が施行され、市内に事業所を設置する企業に優遇措置を講ずる事とし、企業誘致の促進と産業振興と雇用機会の拡大を目的とした。
- ・ 主なものは、事業開始 1 年後から固定資産税・都市計画税の減免（3 年間）や 1 年以上の居住・勤務者に 50 万円（最高 10 人まで）支給。

<p>報 告 内 容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 太陽光発電設備設置奨励金は、1 k w 当たり 35 万円 ( 10 k w 以上 ) を交付。( 1 回限り )</li> <li>・ 太陽熱温水器設置奨励金は、集熱面積 1 m<sup>2</sup> あたり 1 5 万円交付 ( 1 回限り上限 500 万円 )</li> <li>・ 上水道口径別加入金相当額奨励金は、加入金相当額の 1 / 2 を交付で上限 500 万円。( 1 回限り )</li> <li>・ 下水道事業受益者負担金等相当額奨励金は、受益者負担金相当額の 1 / 2 を交付で上限 500 万円。( 1 回限り )</li> <li>・ 用地取得奨励金は、事業用地 ( 事業開始 5 年以内に取得 ) を取得し、1 年以上事業を継続した場合、取得費用の 1 / 2、上限 1,000 万円を交付。( 1 回限り )</li> <li>・ 従業員転入奨励金は、工場新設に伴い正規従業員を市内に転入させ、1 年以上継続して雇用している場合に 1 人当たり 10 万円を上限 300 万円。( 1 回限り )</li> </ul> <p>という、大変手厚い制度である。</p> <p>4 まとめ</p> <p>( 1 ) 多くの自治体が、合併後の人口減少・流出傾向がみられ、少子高齢化社会の進行も拍車を掛けている中で、様々な試みがされている。上田市もリーマンショックからの外国籍市民の流出があり、合併時の人口を 8 0 0 0 人以上下回っている。東京からは新幹線で 1 時間 3 0 分余りであり、新幹線通勤・通学をしている市民もいる中で、移住・定住を含めた I U J ターンを進める事が重要であり、企業誘致補助金とそれに伴う移住・定住補助制度は見習う必要がある。</p> <p>( 2 ) 上田市は高速道路沿線にあり、長野道・中央道とも連絡が良いと言う絶好の環境にあり、企業を誘致するにも適している。しかし、既存の工業団地はすでに飽和状態であり、新たな工業団地の場所を設置する事が重要と思えた。</p> <p>( 3 ) 上田市は観光都市であるが工業で栄えた町であり、その復活を望む声は多い。市民の技術水準も高く、精密・電子・機械等の優秀な企業も多く、海外に製造拠点を持っている企業もある。それらの企業者に、「今、上田市に何が必要か？」を聞く機会も必要と思えた。</p> <p>( 4 ) 今回の視察では、関東平野の中央に位置する行田市と言えども、工業団地の利用企業は製造業ではなく流通業で、十分な雇用増とは言いにくいとの意見もあり、必ずしも思い通りにはならなかった状況は、注視したい。</p>
----------------------------	---